

# 猫ばっば

今は昔、今の福島県のある村のある家で猫が飼われていました。村人みなからもたいへんかわいがられ、とても長生きをしていました。

ある日のこと、村の人がその猫を見るときつぽが二股に分かれているではありませんかこれが噂に聞く猫又だ。人をとって食うという猫又だ。村人はみんな恐れおののき、村中大騒ぎとなりました。なんとか追いつ出そうと村中で唐辛子を火にくべ、いぶしました。もくもくもくもく恐ろしい煙が村に充満し、猫はあまりの苦しさに村を出て行きました。村人はかわいそうとも思いましたが、恐ろしさには勝てませんでした。



猫が居なくなってほっとしました。その後村ではもとどおり平和な時が過ぎていきました。しばらくして、そんな騒動とは無縁の北の湯に一人のおばあさんがやってきました。みずほらしい身なりで、目が悪いのかしょぼしょぼしています。私は身寄りもお金もありません。何でもします。おいてください。当時の館主は哀れに思い、またとても優しくなので、働いてもらうことにしました。おばあさんは働き者で朝早くから夜遅くまで陰日向なく働きました。信心深いのか温泉神社を敬い、毎日掃除をし、大切にしました。目の湯の薬効もあつてかおばあさんの目はみるみるよくなり、ますます元気に働くようになりました。

ある日のこと家族連れが北湯にやってきました。お風呂に入り、食事をし、楽しく過ごして、ぐっすりと眠りにつきました。家族のひとが明け方おじいさんがいないのに気づき館内を探しましたがいません。明るくなって、宿の周りを探すと、なんとおじいさんはずたずたに引き裂かれ、大きな木の枝にひっかかっています。人間業とは思えない惨状、あまりの恐ろしさに皆打ち震えるばかりです。聞いてみるとこの家族はあの猫又騒動の村からやってきたのでした。そして、その日以来おばあさんはいなくなり、あの村の人々は現在も北温泉にはやってきません。

さて、あのおばあさんはどこへ行ったのでしょうか？いや、もう猫の姿に戻っているでしょう。伝説では猫又は福島県の裏磐梯に移り住んだそうです。

今、そこは猫魔ヶ岳と呼ばれ県内有数のスキー場としてにぎわっています。猫魔スキー場に行かれましたらばくれぐれも唐辛子など燃やしませんよう。まあ、普通はそんな事しません。

ちなみに ばっば とはこの辺から東北にかけてのおばあさんの呼び方です 親しみを込めた良い呼び方なんですよ さらに、ちなみに、おじいさんは じっち と呼びます。